

博士學位論文

内容の要旨
および
審査結果の要旨

乙第25号

2016
創価大学

本号は学位規則（昭和28年4月1日文部省令第9号）第8条の規程による公表を目的として、平成28年9月17日に本学において博士の学位を授与した者の論文内容の要旨および論文審査の結果の要旨を収録したものである。

学位番号に付した乙は、学位規則第4条2項（いわゆる論文博士）によるものである。

創価大学

氏 名	栗山 直樹
学位の種類	博士（経済学）
学位記番号	乙第25号
学位授与の日付	平成28年9月17日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当 創価大学大学院学則第31条第5項該当 創価大学学位規則第3条の3第4項該当
論文題目	The Strength of Japanese Human Resource Management and Labor-Management relationships, and the Challenge in Supply Chains in Asia – Employment Practices, Labor Conditions and Standards
論文審査機関	経済学研究科委員会
論文審査委員	主査 Phillip Debroux 経済学研究科教授 委員 北 政巳 経済学研究科教授 委員 高橋 浩夫 白鷗大学名誉教授

【論文題目】

The Strength of Japanese Human Resource Management and Labor-Management relationships, and the Challenge in Supply Chains in Asia – Employment Practices, Labor Conditions and Standards

(日本的人的資源管理と労使関係の強みとアジアのサプライチェーンにおける課題に関する研究雇用慣行と労働条件と労働基準を中心として)

平成28年7月13日、最終試験が行われた。まず著者により論文の概要の説明がなされた。その後、3人の審査員になされた質問とコメント、それから、栗山氏の答えが述べられます。最後に、審査員たちの評価が述べられます。

【論文内容の要旨】

まず、本研究の問題意識や推論、課題を形成。設定するまでの課程や背景を説明し、その妥当性を示すことを主な目的としている。この論文のアプローチは日本のモデルのコンセプトの形成とケーススタディを使った実験研究のセットから構成されている。情報とケーススタディの資料はインタビューとヒアリングとアンケートによって構成される実地調査によって集められた。

本著は第1部1-4章には日本式経営モデル、第2部第5-10章にはアジアに対しての日本からの移転。影響として、第3部12-14章には、アジアへの日本企業の影響。移転の問題を入れ、タイをあげて具体的に検討。分析されています。第4部12-14章には、国際的視野からの企業の社会的責務に伴う労働者基準について、栗山氏の従事された2011年のアジア雇用組織調査に基づき時差代のアジア企業経営者を展望されます。

第1章では日本の人的資源管理の慣行と労務管理の関係の定型概念について書かれている。第2章では労働者の高い献身と組織の規律から来る組織市民行動の源について、労働者による心理的契約と公平であるという認識を使って調べられている。

第3章では科学技術の進歩による産業の変化に対応した飲食産業の雇用のリストラについて詳細に分析されている。

第5章では1997年のアジア金融危機に対抗したタイの供給者のネットワークの回復力についてタイのトヨタの例を用いて実証している。

第6章では日本の下請け慣行についての以前の章についてレビューがなされている。

第7章では科学技術の日本からアジアへの移転のソフト面についてレビューがなされている。

第8章では1990年に行われたクイの自動車と電子産業の日本の11の子会社のケーススタディを含んでいる。

第9章ではアジアの発展途上国の現地の中小企業の人的資源開発への考え方について書かれている。

第10章は公的機関での従業員の職業訓練と社内での訓練について扱っている。

第11章では1980年代後半の途上国における国際的な労働基準についての詳細な議論について書かれている。

第12章では前の章の議論に引き続いて、核心的な国際的な労働基準が定着する過程について詳細に説明されている。

第13章ではアジアの経営者の団体の視点について概要が書かれている。13の国の経営者の団体の代表になされた、著者によって用意されたアンケート結果の分析がなされている。

第14章ではアジアの生活条件と労働条件に対する新しいアプローチが提案されている。この章ではワークライフバランスの創造の中の労働と生活の宇目互関係を強調している。

【最終試験の結果】

高橋先生は論文について以下のコメントを述べました。栗山氏論文につぎ込んだ膨大なエネルギーと時間であり、それが長年の研鑽の元で見事に結晶化している点である。栗山氏の長年の資料収集、現地調査を生まれ作成され、それなりの整合性をつけてまとめられて、優秀な著作と言えます。

北先生は栗山氏の研究でまとめられた日本とアジアを結ぶ人的資源に関する研究は多くの研究者、事務家から歓迎されるであろう。しかし、日本から発言し続けられる以上、日本古来からの伝統や慣習が何度も再活用化され、その新しいに対応してきた独自性への視点も忘れずに、さらに活躍いただきたいものである。

本論文作成に多大な努力が注がれていると認められることとなります。Palgrave-Macmillan出版社で出版されることが決めています。国際的に本論文の学術的水準が学会レベルで評価されていることが確信されています。

以上により、3名の審査員は栗山直樹氏の論文は博士論文として十分な内容と水準を有しているものと判定する。